

交流・文化施設等整備検討委員会概要

1	会議名	交流・文化施設等整備検討委員会 第2回専門委員会
2	日時	平成20年11月21日(金) 午前10時から12時まで
3	会場	(財)都道府県会館 406号室
4	出席者	日端委員長、美山副委員長、津村委員、関田委員、太田委員、滝澤委員、 【欠席委員】土本委員、伊藤委員、佐田委員
5	市側出席者	石黒副市長、大澤政策企画局長、小菅教育次長、 宮川政策企画課長、伊藤交流・文化施設建設準備室長、中部文化振興課長、 若林交流・文化施設建設担当係長、
6	運営支援業務受託者	室賀建築設計事務所 室賀欣一氏
7	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
8	傍聴者0人	記者0人
9	会議概要作成年月日	平成20年11月22日

協議事項等

1	開会(大澤政策企画局長)
2	副市長あいさつ 今日は、過日開催された公園広場部会、美術館部会の内容を踏まえ、美術館の方向性のある程度決めていただき、時間があればホールについても議論をいただきたい。
3	委員長あいさつ 限られた回数の中で非常に重要な議論をいただいている。中間報告につなげていきたい。
4	議事 (1) 部会の設置と検討結果について 公園広場部会について 美術館部会について 事務局:(説明資料1・2) 委員長:JT跡地の全体整備について、地区計画上の制限もあるが、本施設は公共施設であり、中心市街地の活性化や回遊の拠点と言う意味でも、ある程度柔軟に考えられるべき。また、商業施設等との融合的な連携を考えれば、JT跡地全体の各施設配置を再考していくつもりで統一の方針を決めていく。 委員:美術館としては、郷土作家4人を中心とした常設展示と、これら作家をキーワードに「体験・参加型」の事業を行う。またホールとの間に共有スペースを設けてお互いに有効利用し、収蔵庫についても設置していく。 委員長:郷土作家については詳細に承知していなかったが、常設と企画展示を連携させ「体験・参加」型の事業によって、彼らの功績を再評価し、また市全体の新たな文化活動として成立できるものと感じた。 委員:全く外観イメージの異なる商業施設と美術館が隣接することに不安を感じる。文化施設のような外観の商業施設であればよいが。 委員:上田には山本鼎のアーカイブ()資料があり、この扱いが鼎を美術界に広めるための重要な鍵となる。また、交流・文化施設と公園との一体性を考えれば、所蔵ブロンズ像の公園への設置の可能性を検討する。 (アーカイブ:資料等をデジタルデータ化し、保存と相互利用を容易にすること) 事務局:市でブロンズ化した石井鶴三の彫刻作品だが、今後、専門家のアドバイスをいただきながら、モニユメント的な屋外展示の可能性について研究していく。 委員:駅や上田城から文化施設への芸術的なアプローチを演出するため、通り沿いに作品を展示したり、案内標識のデザインとして作品を取り入れたりすることも考えられる。屋外

展示にあたっては、ガラスケース等を利用すれば作品保護にもなる。

委員長：今の意見はぜひ取り入れたい。また、ブロンズ像の展示については、現物ではなくコピー作品を作成して使用すればどうか。

委員：必ずしも「展示すれば鑑賞される」わけではなく、作品周辺が自転車置き場になってしまった悪い例もある。また、展示するなら現物を適正に展示する方が良い。

委員：彫刻のまちづくり、というテーマで彫刻の屋外展示を行ったが、市民に浸透せず、当初期待した効果が得られなかった例もある。石井鶴三のブロンズ作品は、作成当時、基本的には屋外展示を想定していない。

委員：動線上に、ケースに入れて展示するアイデアは面白い。展示する作品のコンテストを毎年開催すれば、上田市の、また美術館のアピールにもなる。

委員：長期的に展示すれば、破損や落書きされることもある。

委員：作品の公共展示にあたっては、人によっては不快に感じることもあるため、適正な判断の上で展示する必要がある。またその判断は、専門家が行うのか、市民が行うのか。上田の場合は後者であるべきと感じる。

委員：市民参加のもと郷土作家を全国に発信していくことと思うが、それ相応の費用がかかること、また、美術に関心のない方からの批判がすることも踏まえておく必要がある。市として明確な方針を位置づけておくことが重要。

委員：郷土作家の発信は、市の広報としての意味合いもある。各郷土作家は「スター」であるが「スーパースター」ではないため、ただ紹介するだけでは不十分。いかに工夫してアピールするかが重要。ホールと美術館の共用部分についても、実際の相互利用のためにはかなり慎重な議論が必要。

委員：複合施設である以上は、ホールと美術館で全く異なるコンセプトを持つ事はできない。郷土作家美術館という位置付けを行えば、一方でホールはどういうテーマを持つのか。また、共用部分というが、両者は用途が全く異なるため現実的ではない。スタッフにしても、活動が全く違うため、対立することは目に見えている。

委員：ホールと美術館で共通した方針、プログラムを作らなければ、次第に分化してしまう。

委員：県外の複合施設で、ホールと美術館の共同を理想に掲げていたが、実際には反目しあい、人員も予算も取り合う結果となってしまった例がある。こうした例から、施設は同一敷地内での分棟構造を検討する必要がある。

委員：商業施設と複合構造を持つ美術館で、学芸員の育成にも配慮しながら、地域に根ざした企画を積極的に企画・開催し成功している例もある。

委員：別の複合施設では、大規模企画を中心に開催している美術館と、ホールとの企画が全くマッチせず、ホール部門のスタッフと美術館部門のスタッフがお互いに全く意見を聞き入れない。施設の相互利用はおろか会話も皆無という例。これを避けるためには、全体を統括できる人材が必要であり、美術館の企画としても、買い取りの企画ばかりでなく人材を育成するようなものでなくてはならない。複合施設は大きな危険性を持っている。

委員長：外観的にはひとつでも、内部で分けるということはできるはず。

委員：分けてしまうと本当にコミュニケーションがなくなるため、最初からコンセプトも全て分けてしまう方法もある。少しでも共同させるならコミュニケーションは必要。ここの方針は今から決定しておかなければ、開館してからでは手遅れ。

委員：現実的には全体を統括することは不可能であり、建物としては中庭や廊下でつなげる、または分棟として、組織としても別にした方が良い。

委員：搬出入口について、公演によっては 10t 以上の車両が何台も来館するため、状況によっては、長時間路上で停車することもある。動線やスペースへの配慮が極めて重要。また、商業施設と文化施設が隣接すれば、30m程の壁が街を分断する可能性がある。

委員長：非常に重要な問題。警察署の建物も巨大な壁になる。

事務局：搬入車両や大型バスへの対応として、駐停車スペースを多めに確保したい。景観については地区計画がやや厳しいため大きな不安はないが、商業施設はごく一般的な外観にな

と思われる。

委員長：整備スケジュールとしては商業施設の方が先行しており、どの程度意見を取り入れてもらえるのか…。

事務局：JT 跡地には新幹線の高架が隣接しており、今後新幹線の整備が進む中で、上田の新たなシンボル施設という視点で考えている。そのためにはホールと美術館は同じコンセプトを持ったと合築の建物を想定していたが、現実的には難しい。

事務局：建設費、維持経費節減の面からも同様に考えていた。

事務局：信念を持ったスタッフが多いほど、対立する傾向がある。

委員：常設展示と貸館公演のみを行うような体制なら対立しない。

委員：最初から、ホールと美術館は相容れない部分が多く、全く異なった価値観を持っている、という前提で検討を進めるべき。理想論だけでは形にならない。合築の長所は、来館者の利便性という一点のみ。

委員：「交流・文化施設」の「交流」には、「障がい者と健常者」の交流という意味を含ませるべき。これまでの文化施設にはない、障がい者の鑑賞や創作をバックアップすることが重要。

委員：文化・芸術は「受身」でない「積極的福祉」とも言え、福祉の部分を担える力が大きい。この意味でも今の意見は重要。全国的にもそうした文化施設はないはず。

委員：「心に痛みを持っている人に優しく芸術を紹介する」そんな観点もよいのではないか。無言館等のあるこの上田でこそ、全国に先駆けてできるのではないか。

委員長：商業部門においても、文化・芸術とのつながりが集客を生むとも言われている。最近は、アウトレットショップのようなオープンモールが注目されているが、冬季の気候を考えれば上田に相応しいかどうか、また、「交流」の部分について、福祉的な意味合いを含めるかどうか、検討する必要がある。

(2) 今後の進め方について

事務局：今日の議論を踏まえ、次回のホール部会と第3回専門委員会につなげていただく。場合によっては中間報告前にもう1回会議をお願いする必要があるかもしれない。事務局でも分棟型の施設を研究してまいりたい。

委員：JT 跡地全体について、シティーというような愛称や、主動線に通りなどの名前をつけても良いのではないか。

事務局：愛称などについては、合併後の新上田市として「全市民が気軽に利用できる」そんなテーマで検討することも必要。いずれにせよ、ホール部会後に全体についてさらに議論をいただく。

(3) その他(なし)

5 閉会(副市長)

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。